

令和6年10月31日

羽生市議会議長 様

会 派 名 新令和会
代表者氏名 増田 敏雄



行政視察報告書

このことについて、別紙のとおり実施したので報告します。

第86回 全国都市問題会議 研修会報告書

(主催 全国市長会) 9番 増田敏雄

令和6年10月

人口約52万の街。兵庫県姫路市。

都市の中心には世界遺産・姫路城があります。

姫路城周辺には、数々の映画やドラマのロケ地になっている姫路城西御屋敷跡庭園「好古園」、赤レンガが特徴の「姫路市立美術館」など多くの観光スポットが点在しています。さらに郊外に足を延ばせば、やく一千年の歴史を有する「書寫山圓教寺」があり、山上では下界と切り離された静かな時間を過ごすことができます。

世界文化遺産 姫路城

姫路城は、1333年に姫山の地に砦が築かれて以降、羽柴秀吉、池田輝政、本田忠政、らが城に夢を託して拡張し、1618年に現在の全容が整いました。

青空に映えるその姿は、水面から飛び立つ白鷺に例えられ、別名「白鷺城」とも呼ばれ親しまれています。

姫路城はココがスゴイ

- ① その美的完成度が我が国の木造建築の最高の位置にあり、世界的にも他にない優れたものであること。
- ② 17世紀初頭の城郭建築の最盛期に、天守閣を中心に櫓、門、土塀等の建造物や石垣、堀などの土木建造物が良好に保存され、防御に工夫した日本独自の城郭の構造を最もよく示した城であること。

などが評価され、1993年に日本で初めての世界文化遺産に登録されました。

姫路城で撮影された主な映画・ドラマ

1. 007は二度死ぬ（1967年）
2. 影武者（1980年）・乱（1985年）黒澤明監督
3. 暴れん坊将軍（テレビドラマシリーズ）
4. 大奥（2006年）
5. 関ヶ原（2017年）
6. 引っ越し大名（2019年）

全国市長会の会場としてふさわしく、とても羽生市で開催することは、残念ながら絶対に無理と感じました。

期日 令和6年10月17日（木）・18日（金）

会場 アクリエひめじ

（姫路市文化コンベンションセンター）

議題解説

健康づくり と まちづくり

～ 市民の一生に寄り添う都市政策 ～

1. 今回の会議の目指すところと3つの論点
2. これまでの「健康づくり政策」を振り返る
3. 自治体は住民の健康づくりに

どう貢献できるのか

4. 今後の「健康づくり政策」における課題と方針
5. 新たな時代の「健康づくりとまちづくり」

を考える

第1日目 10月17日（木）

9：30 開会式 全国市長会会長

開会挨拶 広島市長 松井 一實

開催市長 姫路市長 清元 英泰

来賓祝辞 兵庫県 副知事

9 : 5 0 基調講演

生命を捉えなおす ―動的均衡の視点から―

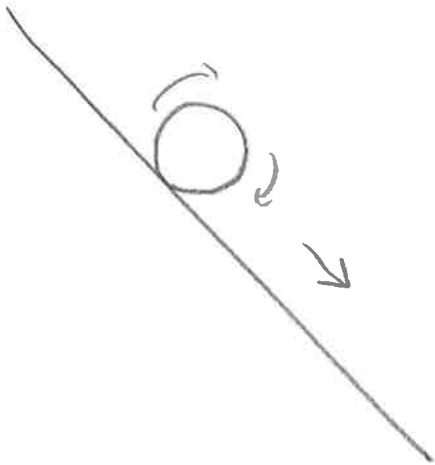
生命科学者、青山学院大学教授 福岡 伸一様

現代人の生命の問題を考えると、当たり前のこと
としている前提がある。それは、生命とは、手、足、
胴体、頭、あるいは各臓器といった“部品”が組み合
わさってできた、プラモデルみたいなものであるとい
う見方である。機械論的生命観といってもいい。
だから、壊れたところは取りかえればよいし、古い
ところは新しくすればよい。しかし、この考え方は、
私たちの身体を考えるうえで、本当に正しい生命の
見方なのだろうか。

科学者ルドルフ・シェーンハイマーは、生命が、
流れの中にあることを明確なかたちで最初に示した
科学者でした。私たちが食べた分子は、身体を構成す
る分子と絶え間なく交換され続けている。つまり、
私たち生命とは、部品から成り立っている分子機械

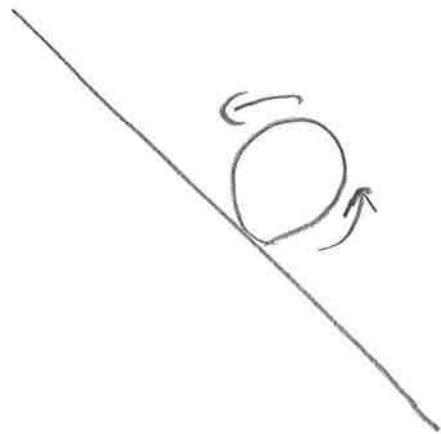
ではなく、部品自体のダイナミックな分解と合成の
中にたゆたう“分子の淀み”なのである。

もの



坂にそって、自然に落ちる。

はき物



坂から落ちてない
ように、体を適応させる。

1 1 : 0 0 主報告

市民の「LIFE」(命・くらし・一生)を守り支える

姫路の健康づくりとまちづくり

姫路市長 清元 秀泰 様

1. はじめに

姫路市 総面積 約 5 3 4 km²

人口 県内 2 位 約 5 2 万人の中核都市

2. 人生 1 0 0 年時代の到来へ

～健康づくりの重要性～

(1) 日本の平均寿命

2 0 2 0 年 男性 8 1 . 5 6 歳

女性 8 7 , 7 1 歳

医学の進歩や社会保障制度の進展で、世界最高
水準

(2) 当市の健康寿命 介護の要否で算出

男性 約 7 9 歳

女性 約 8 5 歳

(3) 健康とは

単に長寿であるだけでなく、健康寿命を延伸させることが重要である。

(4) 健康が街の活力をうみだす

地域活動や就労などを通じて、社会の一員として活躍することで、人と人、人と地域のつながりが生まれ、生きがいの創出や地域経済の活性化などが期待できる。

3. 健康づくりに資する当市の取り組み

(1) 市民による主体的な介護予防を促進

- ① 軽度認知障害等の予防支援
- ② 生活習慣の改善ならびに各種疾病の早期発見
および重症化予防

(2) ウォーカブルなまちづくり

「居心地がよく歩きたくなるまちなか」の形成に取り組んでいる。

- ① 公共施設の利活用、歩行者利便増進道路
「はこみち」づくり
- ② 姫路 大手前通りイルミネーション

(3) ICT を活用した健康づくり

- ① マイナンバーカードを利用した救急業務の
迅速化・円滑化

- ② 「姫路ポイント」を活用した健康づくりの促進

(4) 未来を担う子供たちの健やかな成長を支援

- ① こどもの未来健康支援センター「みらいえ」
の開設

- ② 子育て情報の発信

子育て支援アプリ「ひめっこ手帳」を活用

4. おわりに

人口減少・少子高齢化が進む困難な時代において、市民の「L I F E」を守り、まちに活力を生み、明るい未来を切り拓いていくための原動力は、「人」であり、健康は、人づくりの根幹をなすものであると考えている。

総括

全国各地により条件が様々であるので、地域事情に合わせた最適な対策を作成することが大切となる。

住民の意思を尊重し、暮らしやすいまちをつくることが大切となる。健康寿命を長くして、人と人、人と地域が生き生きと明るく、助け合いながら活力あるまちづくりをすることが重要である。

また、若者たちが、仕事と適切な資産運用により高額納税者になれるようにしなければならないと思う。なぜならば、70万人世代が、200万人世代を支えるためには、かなりの負担が若者にのしかかるのは必然である。若者が、喜んで高額納税できるような仕組みを作ることが、我々の使命となるのである。私は、その仕組みを作るために、残された人生を掛けて頑張るつもりであります。

今回の、全国都市問題会議に参加できて、本当にありがたいとおもいました。ありがとうございました。

松本議長 様

小野田和男

第86回全国都市問題会議参加報告

下記日程により第86回全国都市問題会議に参加いたしました。

日 時：令和6年10月17日（木）・18日（金）

テーマ：健康づくりとまちづくり（市民の一生に寄り添う都市政策）

会 場：アクリエひめじ（姫路市文化コンベンションセンター）

上記会場で議論するところは3つあった。①これまでの健康づくり政策はいかなるインパクトをもたらしてきたのか②住民の健康づくりに対して自治体が果たすべき役割は何か③住民の健康づくり政策は今後どう展開されるべきなのか。である。

- ① 健康づくり政策はいかなるインパクトをもたらしたのか。については「全ての国民が共に支え合い、健やかで心豊かに生活できる活力ある社会の実現」を目標に①健康寿命の延伸・健康格差の縮小②生活習慣病の発症予防・重症化予防③社会生活機能の維持・向上④健康の為に資源へのアクセスの改善と公平性の確保、⑤生活習慣の改善の5つを「健康の増進に関する基本的な方向」として位置付けてきた。

これ等の内目標に達した、ものとして健康寿命の延伸や75歳未満のがんの年齢調整死亡率の減少、認知症サポーターの増加や共食の増加等がある。しかし悪化しているものもある。それはメタボリックシンドロームの該当者及び予備群の減少、生活習慣病のリスクを高める飲酒をしている者の割合の減少、睡眠による休養を十分にとれていない者の減少、といった項目がある。全体の傾向として、生活習慣病/社会環境に関する数値が悪化している。

- ② 住民の健康づくりに対して自治体の果たすべき役割は何か。これについては、自治体が住民の健康づくりに果たすべき範囲は「一生」なのである。都道府県は政府が策定した基本方針を踏まえて「都道府県健康増進計画」を策定することが義務付けられている。市町村レベルでは努力義務ではあるものの、多くの自治体が「健康増進計画の策定に前向きに取り組んでいる。市町村の健康増進事業では、栄養・食生活分野、身体活動分野、歯、口腔分野、生活習慣病分野、健康受診率向上分野に関する取組が重視される傾向にある。この取組が健康寿命の延伸やがん死亡率の改善、認知症サポーター数の増加に結び付いていくのではないかな。

- ③ 住民の健康づくり政策はどう展開されるべきなのか。については事業取組をより実効的なものにするための政策決定/遂行のツールとして「データ/情報通信技術（ICT）の利用」の重要性が浮かび上がってくる。

つまり、自治体の政策策定において「実証的根拠に基づいた政策決定が求められていることを意味するのです。また、関連した最近の動きとして、デジタル技術の活用を通じて地域における健康と医療に関する課題の解決に重点的に取り組む「デジタル田園健康特区制度」が挙げられる。

又、主報告、一般報告等4名、4件・パネルディスカッションでの発表が4名、4件あったが中でも茅野市長今井敦氏の講和は人口規模が羽生市と同規模であり参考になった。特に定時・定路線バスを廃止し電車の発着時刻に合わせたバス路線の設定、予約制のAI乗合オンデマンドバスの実施。「挑戦なくして成功なし」の言葉があるがまさにこの通りと思えた。他に流山市長伊崎義治氏の講和で「健康都市」とは量より質であり「緑豊かな良質な住環境・快適な都市環境」の実現であると言う。その実現の為に流山市では平成19年に健康都市宣言をし5分野に分けて健康都市政策を展開している。市長のリーダーシップと共に都心から25km、平成17年にはつくばエクスプレスも開業し地域環境も良かった、と思うが財政規模オーバーの計画実施には返済能力に自信があったと思うが感心した。やる気、見通しが無ければ決心出来ない事です。

良い事を沢山聞いてきたが自治体それぞれが同一環境でないので羽生市が即同一行動は出来ない、が参考にはできます。

第 86 回全国都市問題会議

健康づくりとまちづくり

—市民の一生に寄り添う都市政策—

期日 令和 6 年 10 月 17 日（木）・18 日（金）

会場 アクリエひめじ（兵庫県姫路市文化コンベンションセンター）

「健康づくりとまちづくり」をテーマに掲げたのは、感染症の脅威や少子高齢化への対応、そして、国民の健康づくりの重要性が、ここ数年で大きく高まっているためである。人口減少・少子高齢化の急速な振興に伴い、日本の社会保障制度は中負担・中福祉から高負担・高福祉の方向にシフトしつつある。住民・国・自治体のいずれかにとっても負担増が懸念される中、生活習慣病による健康リスクの低減・健康寿命の延伸など、行政等による住民の健康づくりへの支援が社会的問題となっている。

加えて、人口減少・少子高齢化が進む社会において、「誰一人取り残さない」市民の一生に寄り添う都市政策としての「健康づくり」とは、何かについて考える会議であった。

今回のテーマの 1 つめは、「これまでの健康づくり政策はいかなるインパクトをもたらしてきたのか」である。これまでの健康づくり政策を振り返る機会をつ

くり、政策遂行のメリット・デメリットを改めて検討すること。

2 つめは、「住民の健康づくりに対して、自治体が果たすべき役割は何か」である。自治体の先進事例研究会のディスカッションを通じて、政策実施において自治体が果たすべき役割や遂行上の課題を論じる。

3 つめは、「住民の健康づくり政策は、今後どう展開されるべきなのか」を議論と、このような大きな視点であった。

1 日目

基調講演では、 生命を捉えなおす 一動的平衡の視点からー

と題し、生物学者/青山学院大学 福岡教授が提言を行い、

主報告として、 市民の「LIFE」(命・暮らし・一生)を守り支える

姫路の健康づくりとまちづくり

と題し、清元 兵庫県姫路市長 が、人口 52 万人を有する中核都市の取り組みの現況を説明。

一般報告者 3 人が続いて登壇

1) 生き物から学ぶ健康なまちづくり

筑波大学システム情報系 谷口教授

2) 都市そのものを健康にするまちづくり

～ストレスを軽減し、リフレッシュできるまちへ～

千葉県流山市 井崎市長

3) IT/AI の健康分野への適用例

姫路市の健康データ解析と歌唱による誤嚥予防

兵庫県立大学 畑副学長

2日目

パネルディスカッション ー健康づくりによるまちづくりー

コーディネーター 中央大学法学部 宮本教授

パネラー 高岡病院児童精神科 三木ドクター

心理社会面から見た、子どもの健康

NPO 法人 日本栄養パトネット 奥村理事長

食を切り口とした 1 人 1 人の望む暮らしを支援

する栄養パトロール事業

長野県茅野市 今井 市長

未来型「ゆい」で紡ぐ健康高原都市・茅野の構築

大阪府泉大津市 南出 市長

未病予防対策先進都市を目指した、官民連携・市民共創
のまちづくり

総 括

2日間の大会を通して、今後の羽生市の『健康づくりとまちづくり』について考察しました。

現在、百歳体操等を通じて、各地区に、健康づくり運動が展開され、地域づくり・人づくりが浸透しつつあります。しかし、今回の会議を通して、健康づくり政策は、「データ/情報通信技術（ICT）の利活用」の重要性を感じました。小・中学校では、すでに、利活用され大きな成果が生まれています。

姫路市では、マイナンバーカードを活用した救急業務の迅速化・円滑化に取り組んでいます。この先、当市においても救急隊がマイナンバーカードを活用し、傷病者の医療情報を確認、命の大切さが一段と進むことが想定できます。

「健康づくりとまちづくり」は羽生市にとって、最も大事なテーマの一つと考えます。今後も、他市の先進事例等を研究しながら、市民の命と健康について、また、住みよい都市、羽生市を創り上げてゆきたいと考えました。

以 上

新令和会

刃久保 恒行

健康づくりとまちづくり

人生100年時代の到来を見据え、市民の生活（命・くらし・一生）を守り支えることを市政の基本方針としている姫路市では、市民の健康増進に向けた施策を積極的に展開している。

人口減少、少子高齢化が進む困難な時代において、市民の生活を守り、町に活力を生み、明るい未来を切り拓いていくための原動力は人であり健康は、人づくりの根幹をなすものであると考えている。

市民の健康づくりを促進するためには、市民の健康状態を把握し、改善、自立を促すだけでなく、市民自らが健康増進に資する活動へ積極的に参画するとともに、日々の生活を送る中で自然と健康になれるような社会環境を構築していくことが重要である。

姫路市では、これから子供から高齢者まで全ての市民の生活が輝き、誰もが健やかに生き生きと暮らせるまちの実現を目指していきたい。